

8-4-9 河川計画専門委員会

1. 主な活動の記録

(1) 委員会の開催

専門委員会を計9回(4月～12月)開催し、河川講習会の企画・運営について審議した。委員会は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和2年に引き続きWEB会議で実施した。

(2) 河川講習会の実施

第30回河川講習会を実施した。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和2年と同様にWEB形式を採用した。テーマは「流域治水と地域防災・まちづくりの現状について」として、東京工業大学環境・社会理工学の中井検裕教授、土木研究所河川生態チームの中村圭吾首席研究員にご講演いただいた。

a) 開催日時

令和3年11月2日(火) 14:00～16:40

b) 講演テーマと講演者

① まちづくりとの連携を視野に入れた水災害リスクのマネジメント

東京工業大学 環境・社会理工学 院長
教授 中井 検裕

② グリーンインフラとその評価手法

～官民連携プラットフォーム技術部会の取組みを中心として～

土木研究所 河川生態チーム 首席研究員 兼
自然共生研究センター長 中村圭吾

c) 参加者：参加者は535名と前年の524名と同程度となった。WEB開催としたことで集合形式の場合に参加が難しい地域の技術者から多くの参加が可能となっている。

d) 講演概要：中井教授は、令和3年5月に公表された「水災害対策とまちづくりの連携のあり方」検討会に座長として参画されており、国土・都市計画の研究者として提言・ガイドラインの作成にどのような考えを反映したかご講演いただいた。

次に、グリーンインフラ官民連携プラットフォームの技術部会長を務められている中村

首席研究員には、気候変動による災害激甚化に対応した「防災」を進める上で必要なグリーンインフラの役割や取組みについてご講演いただいた。



河川講習会のWEB配信画面

(3) 研修会への講師の派遣

全国建設研修センターより要請を受け、「地域の浸水対策」と「河川整備計画」をテーマとした自治体職員向け研修会へ講師派遣を行った。

(4) 国土交通省との意見交換について

水防企画室からの要請を受け「内外水一体型氾濫解析モデル」に関する意見交換会、水管理・国土保全局からの要請を受け、河川技術評価委員会、河川砂防技術基準検討委員会へ参加した。

(5) RCCM 自主教材の改訂

建コン自主学习システム専門委員会からの要請を受け、RCCM 自主教材の改訂の必要性について確認を行い、修正作業を実施した。

2. 次年度の活動について

会員からの開催要望が多い河川講習会や対外的活動(講師派遣、意見交換会等)は継続し、コロナ禍において中止している他イベントについて、開催形式等を委員会で検討し、適宜実施する。

(河川計画専門委員会委員長 伊藤 猛)